



ハートフルナース

学習会は発見の連続

国家試験合格に立ちはだかる
環境や制度、体験の違い

JAMNA 研究員 小笠原広美さん



JAMNAの小笠原 広美 研究員

昨年8月の支援者決定以降、毎週1回週末に、インドネシアのジャカルタで、国家試験対策の学習会を行ってきました。日本の看護について理解してもらいたいと考えて学習を進めましたが、毎回、「そこでつまづくのか！」という発見の連続でした。

日本の国家試験はすべての分野にわたって出題されるため学習範囲がとても広く、そういった試験を受けた経験のないインドネシア人看護師たちにとっては、初めて学習する内容も多かったようです。実際、看護体験のない、小児看護、母性看護、精神看護の分野は、特に苦手意識があるようでした。

彼女たちが、なにが分からなくて、なぜ間違ってしまったのかを模索しながら、手探り状態で進めてきた勉強会。難しい専門用語はふりがなが無くても比較的読めるものの、インドネシアにはない日本の制度や福祉、また難病などについての理解には時間がかかりました。

国家試験の問題が解けることも大切ですが、日本で看護をすることになったときに患者さんの思いに寄り添い、回復を促すような働きかけができるようになってほしいと願って指導をしてきました。しかし、すでに完成された判断を変えていくことは、とても難しく感じました。

国家試験が近づいたら仕事を辞めて学習に集中する予定

がなかなか事情が許さず、2名は日本に出発する前日まで仕事との両立を頑張っていました。

また、ジャカルタ在住の日本人元看護師さんたちも、ボランティアで学習のお手伝いをしてくださいました。分らないところが違う4人のために個別指導もしてください、最後の追込みを充実させることができました。

日本が大好きな4人ですので、夢が叶うことを祈っています。

もう一度、日本で看護技術を学びたい

元EPA候補者が国家試験に再挑戦！

JAMNAが支援している元EPA看護師候補者の受け入れは、今回で5回目となりました。

候補者たちは2月14日に第105回看護師国家試験、2月15日に第67回愛知県准看護師試験を受験し、3月の合格発表を待っています。

次号にて、試験の結果をご報告いたします。



(左から) コイマさん、メティさん、川原代表理事、橋本理事、ゼアさん、モニカさん



学習会開始時から使い続けてボロボロになった、候補者のノート